



もりメイト倶楽部 Hiroshima 発【森づくり啓発シリーズ】
～こんな事にも関わっています～



『MOTTAINAI キッズ植林プロジェクト』約200人が参加！

植林を通じて、地球の未来のために、一人ひとりができることを考えるきっかけづくりになったこの事業を、ぜひ我々の手で引き継いでいきませんか？！

理事長 山本恵由美



ワンガリ・マータイ氏

ケニアで植林を続け、環境分野で初、アフリカの女性としても初めてのノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんが「もったいない」という美しい日本語を「環境を守る世界共通語」として広めることを提唱し、まず日本の子どもにも植林をと『MOTTAINAI プロジェクト』がスタートしました。



当日の集合写真。倶楽部のメンバーは植林の指導に当たりました。



植林を通して、自然環境の大切さを学ぶ子供たち



◆このプロジェクトは国内の9箇所で実施され、その一箇所に広島が選ばれました。

2005年2月にもりメイト倶楽部 Hiroshima のメンバーが発起人となり「京橋川かわいあいあしがるクラブ」を立ち上げ、中区白島九軒町の京橋川右岸にある白潮公園周辺で子どもたちや町内会の人たちと一緒に葦を刈り、刈った葦でアシ舟を造りカヌーとともに川に浮かべ、河岸のゴミを回収し、干潟観察などをしてきました。

◆その年は被爆60周年。秋に被爆桜を6本植樹したところ、翌年の開花直前に6本とも枝を折られる事件が発生しました。全国各地で関心が持たれ、その事がきっかけとなり子どもたちを始め住民の手で再度植樹をしたいとの思いで応募し、大きなイベントに発展することに！

◆京橋川沿い、白潮公園から新工兵橋まで約1kmにわたり右岸5箇所に約200人が倶楽部員の指導

の下、山桜、ベニシダレザクラや10月桜など38本の苗木を植えました。午後から従来あるソメイヨシノの枯れた枝や河岸の笹などの刈取りと整備も行いました。植林を通じて地球の未来のために一人一人ができることを考えるきっかけづくりになった事業です。

◆「私たちが呼吸する空気、飲み水、食べ物、すべて、自然からの預かり物です。これこそが MOTTAINAI 精神の最も大切な価値なのです」というマータイさんの言葉を思い出しながら、施肥などのメンテナンスを例会で計画できればと考えています。

～以下は大事にしたい彼女の思いです～

もったいない = 3R + Respect

Reduce (ゴミ削減)、Reuse (再利用)、Recycle (再資源化) という環境活動の3Rをたった一言で表せるだけでなく、かけがえのない地球資源に対する Respect (尊敬の念) が込められている言葉、「もったいない」。



川岸に建てられた記念のボード